

～スポーツを使って街を元気にする～ 太田未来創造会議

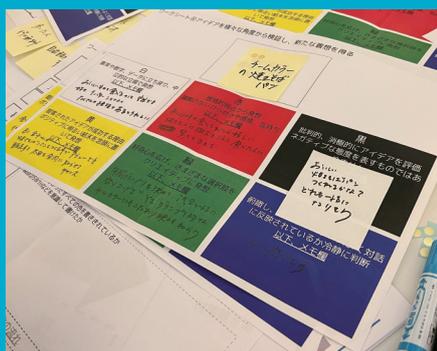
第1回 2022.12.13

第2回 2023.01.10

第3回 2023.01.13

—— 街の未来へ、チーム移転や新アリーナを活かすには、何が可能か？ ——

本市では群馬クレインサンダーズの本拠地移転や新アリーナの建設など、スポーツをめぐる機運が高まっています。この太田未来創造会議では、これまで街が抱えている課題や現状に対して、街の未来像を描き、新アリーナやスポーツを活かしたまちづくりをどのように実現していくのか、多様な参加者のみなさまとともに描きます。チームや新アリーナが、多様な人々・組織とともに街の価値を高め、課題を解決していく未来をつくるには？チームや新アリーナによって訪れる人々に、さらに街や地域、旅を楽しんでもらうには？太田未来創造会議を機に、新アリーナやスポーツの力を活かしたまちづくりに、より多くの方が関わり、街の未来をつくっていく機会を創出します。



第1回 街の課題を考える

日時:令和4年12月13日(火)18:00~21:00

会場:太田市運動公園市民体育館

太田未来創造会議 第1回開催!

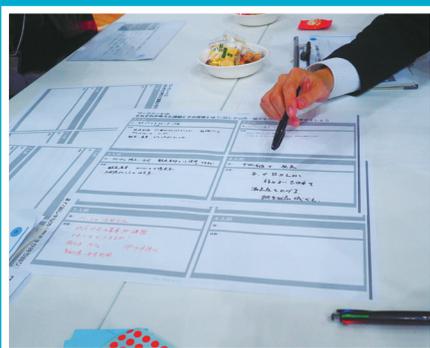
この会議では「街の未来へ、チーム移転や新アリーナを活かすには、何が可能か?」をテーマとして、太田市が抱えている課題を共有した上で、スポーツを活かしたまちづくりをどのように実現していくのか、街の未来像を多様な参加者の皆様とともに描いていくものです。今回は太田市内外で、太田市のまちづくり活動に興味を持っている方が集まりました。

また今回の会場は、群馬クレインサンダーズのホームアリーナである「太田市運動公園市民体育館」でした。ホームゲーム開催前日ということで、会場は試合が開催される仕様となっていました。普段選手がプレーするコート上での開催となり、試合同様に熱気溢れるセッションの場となりました。



街の課題は多種多様

第1回の会議のテーマは「街の課題」についてでした。「街なかに人が少ない」「スポーツ人口の減少」「他地域からの来街者の減少」といった事実の把握から、「オフシーズンや試合がない日はアリーナを活用できてない」「試合当日も試合以外の楽しみがない」「街にワクワク感がない」といったものまで、参加者のみなさんで対話しました。

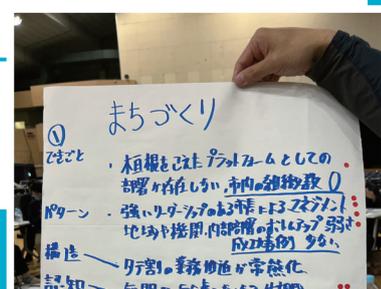


街の課題とスポーツの関係

街とスポーツは様々な関わり方があります。そして街の課題を解決するためにスポーツを活用することは、大きな可能性を持っていることを参加者のみなさんで共有できました。いまスポーツをめぐる機運が高まる太田の街において、身近に感じる街の課題に対してスポーツはどのように関わるべきか、参加者のみなさんの立場や役割を超えて対話しました。

グループプレゼンテーション

セッションの最後には、グループで対話した内容を模造紙一枚にまとめて発表しました。街の課題について出た意見としては、スポーツ、特にバスケットボールやアリーナに焦点を当てたものから、太田の街の魅力や賑わいに関することまで、多様な広がりがあるものとなりました。(次ページ参照)



Aチーム

アリーナはもっと活用できる！



アリーナの活用が不十分である。

リーグシーズン中は活用されているが、オフシーズンは活用されていない。稼働は土日に集中してしまっていて、平日の稼働が少ない。

アウェイ客の満足度を高めたい。

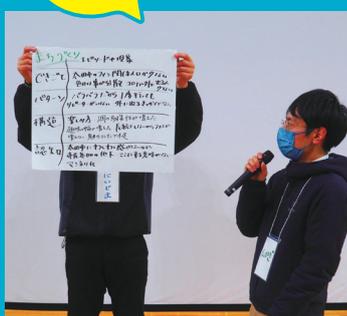
試合以外にも太田での楽しみを見つけない。アウェイで来るファンの満足度を高めていきたい。そのためには、試合会場内の周辺観光の発信をするべきである。(ex. アオーレ長岡。アウェイのファンを迎えるアナウンスがある。アウェイのファンをリスペクトすることが大事)

試合観戦だけではない楽しさを増やしたい。

アリーナに来場するファンの滞在時間が短く、試合に直行直帰してしまっている。試合前後のコンテンツが足りないと感じている。試合の観戦と前後の体験価値が価格を上回ることができれば満足につながるのではないかな。

Bチーム

太田市にもっとワクワク感を！



太田市の魅力が分散している

太田にはコンテンツがあるが、市内に分散していて、面としての賑わいがない。また関係人口や交流人口が少ないため、市内の方方で完結している印象がある。

魅力あるコンテンツを！

昨今、個人で楽しむコンテンツも増えている。またリアルでなく、ネット空間で楽しめるコンテンツも増えている。そのようなコンテンツと比べて、スポーツができることは何があるのか、バスケにできることは何があるのか、考え抜くことが必要。

太田市ならではの体験が欲しい。

太田オリジナルの体験をつくるべき。ここでしか体験できないことがあれば、ひとが集まってくると思う。その一つとしてスポーツ(バスケットボール)は有力なコンテンツになり得る。

Cチーム

もっと街なかに賑わいを！



街なかに人が少ない

市民が群馬クレインサンダーズを周知し始めたので、観客は増えている。ただ街なかに人が少なく、賑わいがない。太田の街なかに魅力が足りないのではないだろうか。またスポーツ人口も減っていることは課題である。

地域としてのインパクトが欲しい

群馬クレインサンダーズは魅力あるコンテンツになり得るはず。なので、地域の人が一体となるような盛り上がり欲しい。観客が増えるのはもちろん、ファンが一体となって街なかに賑わいが欲しい。

仲間・共感・共有

街なかに賑わいをもたらすには、サンダーズを我が事として捉える人が必要。どれだけ多くの人が我が事としてサンダーズに関わるか。そのために必要なことは、サンダーズの活動や理念への共感であり、それを共有する仲間である。

Dチーム

バスケ+αで付加価値を出していきべき。



垣根を超えたプラットフォームの部署や組織が必要

新アリーナの整備にあたって、太田市の地域の盛り上がり欠けている。それは、行政が縦割りの組織になっていることが要因ではないか。いまこそ、垣根を超えたプラットフォームの部署や組織が必要だと思う。

行政の推進力があるのは強み

太田市は合併した地域ということで、つながりが弱い部分がある。それを市長の強いリーダーシップで補っていると思うが、それに頼りすぎてはいけない。行政と民間が連携して、事業を推進していくべきである。官民のパートナーシップの組み方を工夫するべきである。

アリーナやチームの認知を高めるべき

スポーツに関心のある市民を増やして、認知度を高める必要がある。現状はスポーツに無関心な市民が多いので、その点が大きな課題である。スポーツを我が事にする市民が増えて欲しい。

第2回 理想の街の未来を描く

日時:令和5年1月10日(火)18:30~21:00

会場:太田市運動公園陸上競技場(会議室)

太田未来創造会議 第2回開催!

第2回は「理想の街の未来を描く」がテーマでした。第1回で対話した「街の課題」をふまえて、将来太田はどんな街になるのが理想なのかを描いていきました。参加者のみなさんは、現状の制約にとらわれずに自由な発想で欲しい街の未来を描いていきました。

また今回の会場は、群馬クレインサンダーズのホームアリーナに隣接する「太田市運動公園陸上競技場(会議室)」でした。スポーツが身近にある環境での開催となり、前回同様に熱気溢れるセッションの場となりました。



10年後の理想の街の未来とは?

第2回のテーマは「理想の街の未来」についてでした。現状の街の課題やこれまでの歴史や文化をふまえて「大切なもの」「守りたいもの」について対話して、太田の未来に向けた“幹”を見える化していきました。昔から太田に関わっている人も、最近太田に引っ越してきた人も、それぞれの視点で「大切にしたいもの」「守りたいもの」について対話しました。

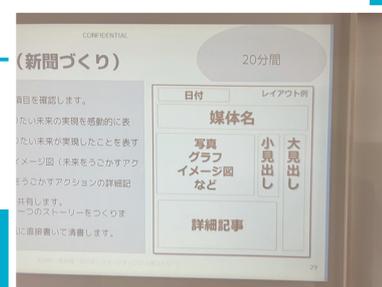


未来編集会議

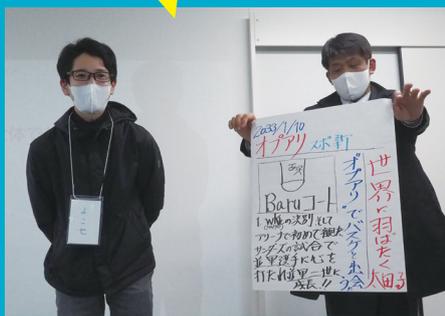
チームに分かれての対話では、参加者のみなさんの多様な視点・意見によって多くの気づきを得られた時間でした。チームで考えた「課題」や「大切なもの・守りたいもの」をふまえて、自分たちが「つくりたい未来」の成功している風景/景色(イメージ)と、「つくりたい未来」へ必要な施策や取り組みを描きました。

未来のメディアに取材を受ける、と想定! 壁新聞で共有

未来編集会議で考えた取り組みやアイデアが未来のメディア(新聞等)に取材されていると想定・具体化し、1枚の「壁新聞」にまとめて全体で共有しました。(次ページ参照)



Team One 清水



世界に羽ばたく太田っ子

2023年1月10日。太田市出身の選手がNBAでデビューを果たした。10年前の2022年、当時ラグビーに取り組んでいた少年はワイルドナイツが熊谷に移転してしまったため、寂しい想いをしていた。たまたま両親とともに訪れたOPEN HOUSE ARENA OTAでバスケットボールに出会い、小柄でも躍動したプレーをする並里を見て勇気もらい、バスケットボールに熱中するようになった。太田市ではOPEN HOUSE ARENA OTAの完成を機に、太田市とチームが協働して街中にバスケットボールコートが増えた。いつでも気軽にバスケットボールができる環境を整備した結果、10年でバスケットボールに取り組む少年が劇的に増えて選手の育成につながり、太田市出身では初のNBA選手が誕生した。これは、バスケットボールに特化した市政政策をリードした行政の功績とも言える。

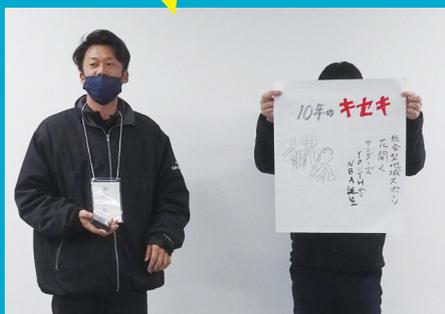
Team 多様性



20万総活躍都市はなぜ実現したのか？

太田市では2023年のOPEN HOUSE ARENA OTAの建設を機に、市民一人ひとりが活躍できる場、それぞれのストーリーを表現できる場の創出に努めてきた。例えばバスケットボールの試合の際には、ハーフタイムを利用して市民が表彰する等のセレモニーの開催等である。2022年より10年間活動した結果として、多くの太田市民が太田市民のまちづくりに参加する心の障壁が低くなり、まちづくり活動に関する当事者意識が高まった。ゆえに太田市民による「太田らしさ」の共有につながり、街のブランディングやシビックプライドの醸成されることになった。太田市民によるプライドが芽生えたのは、OPEN HOUSE ARENA OTAの建設によって、様々な活動が生まれてきたことによる大きい。

Team 差別化・積極化戦略



10年のキセキ

総合型地域スポーツクラブの先進的モデルとして2000年に開講した「おおたスポーツ学校(おおたスポーツアカデミー)」は、2033年に創立33周年を迎えた。これまでも多くの競技においてトップ選手を多数輩出してきた歴史があるが、このたび創設以来初のNBA選手が誕生した。群馬クレインサンダーズのユース出身の選手でもある。これは太田市が政策としてリードしてきたことと、市民が現場で独自のクラブ運営ノウハウを構築してきたことの両面での功績といえる。

Team 焼きそばOnly



Bリーグ集客日本一

太田市に本拠地を構える群馬クレインサンダーズは、2032-33年シーズンにてBリーグチームの中で集客力トップとなった。これはアウェイチームを迎え入れるサンダーズ独自のビジネスモデルを構築したことが大きい。10年ほど前より市内のバス事業者と旅行代理店が協力して、アウェイチームのプースターが太田市に訪れた際のツアーを実施している。市内の企業がスポンサーとなり、試合を観戦する前後の時間で太田市の観光スポットを巡り、地元住民との交流が自然に行われる仕組みとなっている。結果として、集客が増えることに加えて飲食店の売上も右肩上がりとなり、市内の経済が活性化することになった。

日 時:令和5年1月13日(金)18:00～21:00

会 場:太田市民会館 スタジオ



太田未来創造会議 第3回開催！

第3回は「アリーナやスポーツクラブがある暮らしを考える」がテーマでした。第2回で対話して描いた「理想の街の未来」の姿をふまえて、将来の太田での活動やシーンについて対話しました。

実際に活動する生活者の目線になって活動のシーンを描いていきました。また今回の会場は「太田市民会館 スタジオ」でした。本格的な音響 / 照明の設備が整った「舞台」のような場での開催となり、3回のセッションのフィナーレを飾るにふさわしい場となりました。

具体的な暮らしのアイデアを考える時間

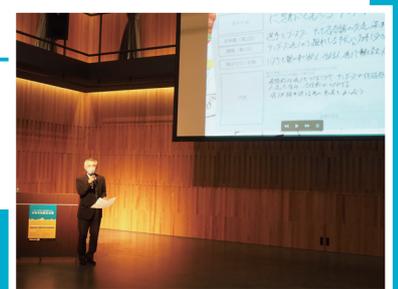
「こんな活動をしたい!」「こんなシーンがあると楽しい!」「こんな場が欲しい!」といった純粋な想いから、アイデアを考えました。また当日はアイデアの質より量を重視して、とにかくたくさんアイデアを創出することに集中しました。その後、個別に出した大量のアイデアをグループで共有し、どのアイデアが望ましいのか様々な観点からディスカッションを実施して、アイデアの質を高めるワークを実施しました。

アイデアのひろがり
可能性のひろがり

今回の参加者のみなさんは立場や役割が異なるので、多様な視点・意見からアイデアが生まれました。そしてそのアイデアはスポーツの枠を超えて、様々な街の活動にひろがっていくものもありました。スポーツは単にスポーツファンのものでなく、街のみなさんで共有するものです。街とスポーツの関わり方がひろがることで、街の可能性が広がることを改めて認識できる時間でした。

最終発表は参加者個人によるプレゼンテーション

今回もセッションの最後に発表を実施。今回はグループでの発表ではなく、個人での発表としました。参加者が考えた「アリーナやスポーツクラブがある暮らし」について、アイデアと想いの丈を1分間のプレゼンテーションにまとめて発表しました。(次ページ参照)





アプリで限定グッズをゲット！

普段利用するスマホでポイントを貯めて、サンダーズの限定グッズがもらえれば、スポーツがより身近に感じることが出来る！



焼きそばパンでみんなを笑顔に！！

チームカラーをモチーフにした焼きそばパンを制作して、試合日に限定販売。B1全チーム分制作するので、焼きそばパンの概念を超えたものをつくりたい！



太田まるごとツアー

バスケットを観て買えるのではなく、試合前後に太田の街を巡るツアーを企画。アウェイファンを取り組み、関係人口の増加を目指す。



アリーナを活用した街のブランディング！

新アリーナをキッカケにして県外からの来街者増を目指す。またプロだけでなく、ユース世代(高校生等)の大会を新設。話題性やメディア露出を高めることで太田市をPRしたい。



参加者個人による プレゼンテーション



市民が表現できる場を！

市民の表現力は無限大。太田市民がアリーナの場を通じて作品展等の発信を行う。市の文化関連の団体と協力して、スポーツと文化の交流も実施する。



試合後のホーム&アウェイ大交流会

試合後はノーサイド！Bリーグの試合後にホーム(太田市民)とアウェイ(来街者)との大交流会を開催して、太田の魅力を知ってもらいたい。会場はクラフトビールが飲める「ダニエルハウス」。



官民一体 人材のピボット

サンダーズと地域スポーツクラブが連携して、スポーツを通して市民・選手の居場所をつくる。特に引退した選手が、その後太田で仕事を出来るような環境(組織)を整える。



おおたまちめぐりツアープラン

アウェイ客向けの観光パッケージプラン。市の中心だけでなく、郊外も観て回れるプランを提案。太田の事業者のPRの機会としても活用。



太田八王子ヒルズ構想

太田市八王子丘陵エリアを対象としたスマートシティ構想。再生可能エネルギーやAIを活用した次代のまちづくりを企業と自治体が協働して実践。他市に例をみない、太田モデルとして発信していきたい。



サンダーズマイルの導入！

日々の暮らしの中でバスケットやスポーツに関する活動をする、サンダーズマイルが貯まる仕組みを構築。街なかでの活動を通じて、アリーナチケットを入手することも可能！



サンダーズ通りのにぎわい！

太田駅からアリーナに向かう道を「サンダーズ通り」として、象徴的な通りにする。周辺の商店と協力して、試合日にはお祭りのような雰囲気街を盛り上げる。



ミニBリーグ

太田から並里2世を！オフシーズンに太田の小学生を対象としたミニバスケット大会を開催。バスケットに加えてハーフタイムのダンスも小学生が実演して、「アリーナ」が思い出の場になって欲しい。



試合前後で街あるき

駅～アリーナ間の直行直帰を避けるべく、サンダーズ通りを設定して、街に滞留を促す仕掛けをつくる。街の経済活性化の一端を担うものにした。



3回のセッションを通じて、
スポーツには様々なことを「ひろげる力」があることを認識しました。
私たちは市民のみなさんとともに、
スポーツの力を活かして、
太田の街の可能性を「ひろげて」いきたいと思います。

